

【茶道・江戸千家】



火曜日は、お茶。土曜日は、小唄。  
着物好きが高じて、和文化に夢中です

——フリーエディター・樺澤貴子さん

静かで和やかな雰囲気のお茶室。話題は床の花や掛け軸、お道具、季節の話題から最近のニュースまで、つれづれなるままに広がっていくとか。



季節感を大切にする和菓子。いわれについて語るのもまた楽しい。



静謐な時間が流れる茶室で、先生の前でのお点前は気持ちも引き締まる。

全員が春らしいやわらかな色の着物業。季節を意識した装いも楽しみのひとつ。



江戸千家・春藤会本部

☎03-3358-6676

東京都新宿区河田町6-6

●稽古日/火曜または水曜(月3回)

入会費/要問い合わせ

月謝/8000円

<http://www.supportlife.info/syunto>

<http://www.supportlife.info/syunto>



うしたことを経てたどり着いたのが、和のお稽古でした。着物を着たときの所作や作法なども自然と身につくため、マナー美人になれることも魅力です」

小唄の師匠は元・赤坂芸者の森尾青游さん。お座敷芸から派生した小唄は、三味線を爪弾きながらうたうもの。艶つばいうた声と、チャキチャキとした話し方の取り合わせが素敵なお師匠さんから口伝えで節を教わる。

今日、樺澤さんが着ている着物は、お師匠さんからいただいたもの。紫地に白地で枝垂桜を染め抜いた型染めの小紋に、ちらりとのぞく裾回しは淡いミモザ色。

「師匠のお着物は、色使いが絶妙！ 帯や小物合わせのセンスも勉強になります」

小粋でほんのり色香漂う装い。ちなみに小唄のお稽古の帯揚げは必ずピンク。これもお師匠さんの教えのひとつだとか。

一方お茶のお稽古は、控えめで上品な着こなしを心がける。衿の抜き方や帯の締め方も変えて「奥様風」に。先生である落合文雪さんや先輩方を見習ってのこ